

平成30年の消防概要

中濃消防組合管内における平成30年中の火災、救急・救助及び通信・指令の概要は、次のとおりです。

火災件数は、54件で前年に比べ11件増加しています。

また、火災種別ごとにみると建物火災19件、林野火災2件、車両火災6件、その他の火災が27件発生しました。前年に比べ建物火災が3件、車両火災が1件、その他の火災が7件増加しています。

損害額は、101,400千円で、前年に比べ67,348千円増加しています。

火災による死者はなく前年に比べ3人の減少、負傷者は9人で前年に比べ5人増加しています。

火災件数を月別にみると、8月に8件と最も多く、次いで1月、2月、10月、11月に6件、4月に5件発生しました。1月に発生した火災は、6件の内5件が全焼の建物火災であったため損害額に大きな影響を与えています。

出火原因では、「たき火」が14件、次いで「たばこ」が5件、「放火の疑い」が3件という順になっています。過去10年間において「たき火」、「たばこ」が火災発生原因の上位を占めています。

救急出場件数は、4,821件で前年に比べ379件増加し、搬送人員も315人増加しました。

救急種別ごとにみると、「急病」が最も多く全体の約64%を占めており、次いで「一般負傷」、「交通事故」となっています。

搬送人員については、65歳以上が全体の約64%を占めており、中でも「急病」と「一般負傷」の割合が高くなっています。

傷病程度は軽症が約37%、入院が必要な中等症が約47%、重症以上が約16%を占めています。

救助出場件数は、67件で前年に比べ2件減少しましたが、救助人員は33人で前年に比べ14人増加しました。

事故種別ごとにみると、交通事故が34件と最も多く、過半数を占めています。

119番受信件数は6,279件でした。うち火災・救急などの災害通報は4,490件で、前年に比べて318件増加しています。また、災害通報のうち携帯電話からの通報は1,778件で、約40%を占めています。

救急医療情報システム(病院案内)は、971件の問い合わせがあり、小児科の案内が最も多く、次いで内科、整形外科、眼科、外科の順となっています。

緊急通報システム(一人暮らしの高齢者宅等に設置された非常通報装置)は、現在471台設置されています。通報は746件で、うち救急車の出場は23件でした。

携帯電話によるメール119番通報(聴覚や音声に障害のある人)は32人登録されていますが、緊急通報はありませんでした。また、FAX119による通報もありませんでした。